

# 社会から期待され、 社会に貢献する学部を目指して

応用生物科学部 学部長 杉山 誠



## 各務同窓会報



岐阜大学

各務同窓会会員の皆様におかれましては、つつがなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。一方で、猛暑、熱波、大寒波、豪雨、巨大台風といった異常気象とともに、これに伴う山火事、氷河後退、砂漠化など、世界各地の異変が伝えられ、「観測史上、最も」という話も珍しくなくなっています。

学部長を拝命して2年目を迎え、自然を相手にしてきた本学部への社会からの期待はますます大きくなるのを肌で感じています。

昨年、ご報告した第2期中期目標に係わる評価(国立大学法人法)に続き、次年度、全ての大学に義務付けられている「機関別認証評価」(学校教育法)を受審することになっています。今回の認証評価では、教育の改善に向けた取組がテーマと言われています。本学部では、金丸元学部長により整備された教育評価改善体制の下、福井前学部長が同活動を推進してきたことから、受審準備が最も進んでいる部局と学内でも高く評価されています。

新たに始めた2つの教育課程が、今

年度、最終年の学生を迎えています。

鳥取大学との間で実施している共同獣医学教育が6年目を迎えました。

年末には、両大学をネットをつなぎ、2日間にわたり卒業発表会を行う予定です。さらに、この卒業生を来年4月に迎える大学院として、連合獣医学研究科から共同獣医学研究科へと生まれ変わるため、準備を進めています。

同様に、工学研究科との連携で始まった自然科学技術研究科(修士課程)も2年目を迎え、修了生を送り出す年となりました。同研究科では、インド工科大学グアハティ校との間で国際連携食品科学技術専攻を設置し、ジョイントディグリー制度の発足が新たに決まりました。この専攻の定員は10名ですが、インドでの期待は大きく、高い受験倍率が予想されています。なお、連合農学研究科でも、同様に本専攻の設置(定員2名)が決まっています。

今から37年前、本学部は各務原市那加の地から現在の岐阜市黒野に移転しました。移転当初、か細かった木々も、大きく堂々とした姿となっていま

す。これと連動するかのよう、床のタイルの剝離、壁のひび割れ、実験室の排水漏れや水道管の破損など、校舎施設の老朽化に関係した問題に悩まされる日々となっていました。かねてより要求してきた改修の概算が通り、今年から学部A・B棟および教室の大規模改修が始まることになりました。3〜4期に分けて、個々の研究室が回避しながら改修を進めるため、完成までには5年以上かかる見込みです。この間、大学を訪れる同窓生の皆様には、ご不便をおかけすることになります。ご理解のほどお願い申し上げます。順調に進めば、農学部・応用生物科学部創立百周年記念式典の際には、生まれ変わった学舎をお見せできるのではないかと思います。

続いて、地域との連携に関してです。昨年、岐阜県中央家畜保健衛生所が学内に設置されたことご報告しました。今年は、前述の大規模改修のため、3つの研究室が同所の3階に退避することになっています。これを契機に、活発な連携活動が始まると大いに期待をしています。また、現在、B棟の東側に、食品産業の活性化を担う岐阜県食品科学研究所(仮称)の建設が来年度の発足を目指して着々と進んでいます。さらに、全国農業協同組合連合会岐阜本部、岐阜県そして岐阜大学が連携して、美濃加茂農場に「飛騨牛繁殖研修センター」を設置することが決定し、新たに2棟の畜舎の建設

が始まりました。また、地域の大きな課題である鳥獣害対策の中核として、野生動物物管理学研究センターの活動が進められています。農林水産省・山村活性化支援事業により推進している揖斐川町小津地区活性化プロジェクトも3年目を迎え、成果が期待される段階に入りました。さらに、岐阜県農業技術センターとの連携による実践的教育の試みが始まっています。

この7月には各務原市との連携により柳戸農場を使って学習会を開催し、市内の多数の小学生が目撃させて畜産体験をする姿を浅野健司市長が視察されました。中川智行教授が中心となり開発を進めてきた「岐阜大酒」も、来年6月1日開催の岐阜大学創立70周年記念式典での披露を目指して、いよいよ製造段階に入りました。

以上、昨年に引き続き、あるいは新たに始めた様々な活動により、学内での本学部の存在は確固たるものになっています。一方で、超少子高齢時代を目前に、大学を取り巻く状況は厳しさを増すばかりです。このような逆風にあっても、順調に本学部の活動を進めることができるのも、同窓生のご活躍とご支援のお陰と深く感謝申し上げます。今後とも、同窓生の皆様より暖かいご支援を賜りたく、よろしくお願いたします。

### 次の飛躍にむけて

各務同窓会会長

水野 隼人（C大15）



各務同窓会の皆様には、お元気でご活躍のことと拝察いたします。

今年是我たちの学部創立95年になります。ささやかではあります、6月の全国の支部の代表の皆さんが集まる代表委員会で、報告をさせていただきます。ご臨席いただいた学長から来年岐阜大学は創立70周年を迎えること、大学の強みである学部の研究機能を生かし、生命の鎖統合研究センターが発足し、また学内に県中央家畜保健衛生所・食品科学研究所が起工されたことが報告されました。まさしく、地域一体、国際研究拠点として羽ばたこうとしています。一方昨今の新聞には岐阜大学と名古屋大学の運営法人統合に向けた検討が進んでいることが報告されています。

私たち卒業生にとっては無関心ではいられないテーマですが、私たちの母校が創立以来、時代の要請と新しい価値の創造を作り上げる努力をしてきたことに確信を持ちたいと思います。

もう一つは、大学と同窓会連合会が共同して創った表彰制度の3年目

になります。C大16卒の小栗達弘（岐阜造園社長）さんが受賞されました。小倉さんは岐阜大黒野キャンパス移転の功労者です。

私たちの母校は、今大きく羽ばたこうとしています。

岐阜大学も地域とともに、共に努力し頑張っています。

地域とともに努力するのは私たちです。私たちが岐阜に愛着を持ち5年後の100周年にむけ、新しい魅力と愛着を作り上げましょう。

### 幹事長からのご挨拶

幹事長 土田 浩治



同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年度より、各務同窓会幹事長を拝命して土田浩治です。本年度は3年間の幹事長としての最終年度を務めます。よろしく願います。

本年度は6月2日に代表者委員会と95周年記念講演会を無事に開くことが出来ました。記念講演会では本年度の岐阜大学同窓会連合会会長表彰を受賞されました岐阜造園(株)社長の小栗達弘様から講演をいただきました。講演では、小栗様の学生時代の思い出とともに、株式上場に関わる様々な苦労話が

披露されました。それに続く95周年の祝賀会も滞りなく行うことが出来ました。早朝から会場設営などにご協力いただきました近隣の会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

さて、代表者委員会では100周年記念事業の趣意書が承認され、いよいよ募金活動を開始する運びとなっております。100周年記念事業では記念誌の発行や祝賀会の開催、さらには在校生を対象とした奨学金制度の創設などを行い、比較的大がかりな事業を行うことを話しあってきました。記念誌の発行に関しては、既に現職教員の間で編集委員の人選を終了し、この秋から具体的な編集作業に入る段取りとなっております。発行までに5年という時間は長いような短いような期間でございますが、100年という節目にふさわしい内容の記念誌にしたいと考えております。

一方、岐阜大学は平成31年6月に新制大学としての創立70周年という節目の年を迎えます。岐阜師範学校、岐阜県立女子医学専門学校、岐阜県立高等工業学校、岐阜高等学校をルーツにもつ本学は昭和24年5月31日に新制大学として発足して以来、来年には創立70周年を迎えます。この記念事業として、現在、学術アーカイブスの整備が始まっております。アーカイブスとは、いわゆる、岐阜大学に関わつ

た研究者や学生が、様々な学実活動を通じて収集した資料などを整理し、その一部を展示する事業です。そこでは、岐阜高等農林学校当時の画像、文章(教科書、教材、時間割など)、もの(校章や制服)なども対象となっております。もし、会員の皆様のお手元にそのような物がございましたらご一報下されば幸いです。

さて、私はこれまでに各支部の同窓会総会に参列させていただく機会もあり、各地の同窓生からの岐阜大学への期待を肌で感じる事が出来ております。また、昨今では名古屋大学との経営統合の話が具体化されつつあり、大学の枠組みも大きな変化を遂げようとしています。しかし、同窓会という枠組みが消滅することはありません。今後も同窓生の期待に応えようとする学生を輩出することが我々の責務の一つであると感じております。今後とも、同窓会活動にご協力よろしく願います。

### 平成30年度各務同窓会代表委員会のご報告

標記の代表委員会が、平成30年6月2日の午前10時より、岐阜大学応用生物科学部101講義室で行われました。水野隼人会長の挨拶に始まり、幹事長と幹事の紹介の後、土田幹事長と森脇学長から挨拶がありました。

岐阜市役所支部の服部氏の司会進行で平成29年度事業・決算報告および会計報告、平成30年度事業計画(案)と平成30年度予算(案)、平成30年度岐阜大学各務同窓会役員(案)の4件の議案を討議し、すべての議案が無事承認されました。審議の中で「終身会費返金」の項目について質問があり、中途退学生への返金であると事務局より回答がありました。また新しく就任



された柵木副会長（V大16）からご挨拶頂きました。

各務同窓会報



その他の項目として、寄付金決算報告と100周年記念事業について報告がありました。また平成31年度の代表委員会は、岐阜大学の70周年記念事業と重なることから、定例の6月の第一土曜日ではなく、翌日の第一日曜日が次週の第二土曜日での開催を検討していると土田幹事長から報告がありました。

続いて、同会場で、95周年記念講演会として株式会社岐阜造園代表取締役社長の小栗達弘氏（C大15）に1時間にわたり講演を頂きました。講演の前半部分では、現在の岐阜造園の業務内容を、スライドを使って詳しく説明され、ほとんどの造園業者が大手の建設会社や鉄道会社の系列にあるにも拘らず、岐阜造園がどこにも属さない非系列系であることを紹介されました。後半部分では自身の生い立ち

ちから大学時代、そして社長として株式市場にまつわる裏話を披露して頂きました。印象深かったのは、大学時代の卒業試験が厳しかったこと、株式市場にまつわる苦労話でした。東京で商売をしてこそ成功であると言う主張もとても印象深いものでした。

続いて、会場を102番・103番教室に移し、交流会及び創立95周年祝賀会を開催いたしました。土田幹事長と水野会長の挨拶に続いて、来賓である野々村修一岐阜大理事より、岐阜大学の近況紹介として、ソフト、ハード両面での岐阜大学の発展状況が資料を用いて説明されました。

乾杯後の交流会の半ばで、杉山学部長による学部の近況報告、昨年度に続いて国際大会に参加したGEM GIFU チームの報告があり、最後に、落語研究会の現役部員（ながら家権汰さん・L大11）と2013年度全日本学生落語選手権で優勝した卒業生（鶴飼家みるくさん・AE大10）が達者な落語を披露してくれ、皆様に喜んで頂きました。

全国の代表委員の方から持参して頂いた地酒を飲みながら、楽しく交流をすることができました。遠路出席して頂いた委員の皆様には、お礼を申し上げます。なお、同窓会事務局へご質問・連絡等が

ありましたら058-229313411（16時以降は留守番電話になります）、E-mail: ob-abs@gifu-u.ac.jp までよろしくお願います。

平成29年度 支部総会開催状況

| 支部名            | 期日       | 出席者                        |
|----------------|----------|----------------------------|
| 愛知県各務会・愛知各務会   | 29.05.20 | 平松 研、土田 浩治                 |
| 岐阜             | 29.07.09 | 土田 浩治                      |
| 愛知県高等学校教員      | 29.06.24 | 松山 勇人                      |
| 岐阜県高等学校        | 29.06.24 | 土田 浩治、中川 寅                 |
| 石川県            | 29.07.08 | 二宮 茂                       |
| 愛知県職員林務関係同窓会   | 29.07.22 | 向井 譲                       |
| 愛知県職員農業関係各務同窓会 | 29.08.30 | 松原 陽一                      |
| 江南             | 29.11.03 | 向井 譲                       |
| 中濃             | 29.11.11 | 松山 勇人                      |
| 東京E科会          | 29.04.24 | 千家 正照<br>※東京E科現役会と合同開催     |
| 岐阜県職           | 30.02.03 | 杉山学部長、矢部富雄、松山勇人、水野会長、平工副会長 |
| 岐阜市役所          | 30.02.05 | 杉山 誠                       |
| 東海農政水機構        | 30.03.07 | 西村 眞一                      |
| 三重             | 29.04.15 | 鈴木文昭理事、松山 勇人               |
| 徳島鳴門会          | 30.01.20 | 松山 勇人                      |
| P科             | 29.11.11 | 杉山 誠                       |
| 東京E科現役会        | 29.04.24 | 千家 正照<br>※東京E科会と合同開催       |
| 岐阜大学           | 30.03.02 | 会長、副会長                     |



ありましたら058-229313411（16時以降は留守番電話になります）、E-mail: ob-abs@gifu-u.ac.jp までよろしくお願います。

平成30年度岐阜大学各務同窓会役員

|      |        |        |
|------|--------|--------|
| 名誉会長 | 杉山 誠   |        |
| 会長   | 水野 隼人  | (C大15) |
| 副会長  | 正村 洋一郎 | (F大25) |
|      | 伏見 知彦  | (C大18) |
|      | 北川 精一  | (V大18) |
|      | 安藤 敏行  | (E大19) |
|      | 川島 光夫  | (P大7)  |
|      | 高橋 実   | (A大13) |
|      | 平工 孝義  | (A大25) |
|      | 柵木 利昭  | (V大16) |
| 相談役  | 杉山 幹夫  | (M1)   |
|      | 新藤 秀逸  | (SP21) |
|      | 中村 孝雄  | (N大7)  |
|      | 後藤 悦男  | (V大2)  |

平成30年度幹事長・幹事及び監事

|     |                |                  |
|-----|----------------|------------------|
| 幹事長 | 土田 浩治          | (生産環境科学課程)       |
| 幹事  | (庶務・幹事長代理)     | 石田 秀治 (応用生命科学課程) |
|     | (事業)           | 加藤 正吾 (生産環境科学課程) |
|     | (会計)           | 渡邊 一弘 (共同獣医学科)   |
|     |                | 松原 陽一 (生産環境科学課程) |
| 監事  | 松山 勇人 (共同獣医学科) |                  |

各務同窓会報

平成29年度各務同窓会決算報告

自平成29年4月1日 至平成30年3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 会費, 入会金, 年会費, 利子, 雑収入, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 事務費, 消耗品費, 人件費, 通信費, 旅費, etc.

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 終身会費, 新入生分, 卒業生分, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 一般会計への繰入, 振込料, etc.

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 基本金特別会計より繰入, 利子, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 決算額, 比較増△減額. Rows include 事務費, 会議費, 旅費, etc.

4. 資産現在高

(単位：円)

Table with 3 columns: 項目, 年度始現在高, 現在高. Rows include 一般会計, 基本金特別会計, 百周年記念事業.

5. 資産保管状況

(単位：円)

Table with 4 columns: 項目, 一般会計, 基本金会計, 百周年記念事業会. Rows include 現金, 普通預金, 定期定額貯金, etc.

平成30年度各務同窓会予算(案)

収支予算書 (平成30年4月1日～平成31年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 会費, 入会金, 年会費, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 事務費, 消耗品費, 人件費, etc.

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 終身会費, 新入生分, 卒業生分, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 予算額, 前年度予算額, 差異. Rows include 一般会計への繰入, 名簿費, etc.

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 前年度予算額, 比較増△減額. Rows include 基本金特別会計より繰入, 利子, etc.

(2) 歳出の部

Table with 4 columns: 勘定項目, 今年度予算, 前年度予算額, 比較増△減額. Rows include 事務費, 会議費, 旅費, etc.

# 学園だより

## 課程等の近況

### ◆ 応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平成30年度も課程長として、分子生命科学コース長の岩橋均教授、食品生命科学コース長の西津貴久教授のご協力を頂きながら、本課程の発展に尽力したいと思っております。皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

当課程は、本年3月に学部卒業生92名を送り出し、そのうち51名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は36名で、そのうち8名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に85名の新入生及び5名の3年次編入学生を迎え入れました。大学院修士課程には平成29年度秋季入学生1名を加えて57名が入学しています。

続いて教員の動向をお知らせします。本学の「生命の鎖統合研究センター」(G-CHAIN)に着任された木塚康彦准教授と田中秀則助教が、本課程の教育にも参画されます。また、長岡利教授(安藤百福賞)、中野浩平教授(農業食料工学会関西支部賞)、山内恒生助教(日本木材学会奨励賞)、今泉鉄平助教(農業

食料工学会研究奨励賞)が学会賞を受賞されました。さらに、長岡教授と矢部富雄教授が「教育研究活動に著しく貢献した職員」として岐阜大学から表彰を受けられました。

学生の表彰に関しましては、平成29年度卒業・修了時に宮城一真くん(学長表彰)、荒木一敬くん(研究科長表彰)、瀧島将伍くん(学部長表彰)、高橋知里さん(同窓会長表彰)、森山章弘くん(同窓会長表彰・大学院)が表彰され、また本年6

月1日の創立記念日に日置裕介くんが学生表彰を受けました。この他にも、29年度には、4名の大学院生(修士)と1名の学部生が学会で優秀発表賞等を受賞して、研究科長表彰並びに学部長表彰を受けました。

また、食品科学研究所(仮称)の竣工(3月の予定)、来年度の岐阜大学創立70周年記念式典での岐阜大学オリジナル日本酒のお披露目の開催など、昨年ご紹介したプロジェクトも着々と進行しております。さらに、インド工科大学グワハティ校とのJoint Degree (JD) Programが文科省から認可され、本年度いよいよ入学試験が実施されます。

名古屋大学との連携が議論されていますが、これまでの歴史で培われ

た本課程の強みを發揮し、さらに高いレベルの研究と教育に邁進する所存です。

末筆乍ら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

(石田秀治)

### ◆ 生産環境科学課程

各務同窓会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度4月より、土井先生の後任として課程長を拝命いたしました。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、生産環境科学課程の近況についてご報告申し上げます。本年3月には89名が学部より卒業し、そのうち39名が自然科学技術研究所生物生産環境科学専攻の修士課程に進学いたしました。また、応用生物科学研究科生産環境科学専攻からは56名の修了生を送り出しました。

大学院改組も年次進行しており、応用生物科学研究科学生も9月入学の数を残すのみとなっております。修了生のうち4名は連合農学研究科に進学し、研究者・高度技術者への道を邁進しております。卒業式・修了式では卒業生代表として羽賀夏子さんが学位記を受領し、修了生代表として森菜摘さんが謝辞を述べました。続く卒業・修了祝賀会では羽賀夏子さんが学長表彰、

堀井貴博君が学部長表彰、見屋井一輝君が研究科長表彰、大澤拓巳君と大潤恵子さんが同窓会長表彰をそれぞれ受けております。また、本年4月には3年次編入の5名を含めて85名の学部生、49名の大学院生を迎えました。

次に教員の動向についてご報告いたします。本年3月には福井博一教授が本学理事・副学長(企画・評価・基金担当)にご就任のため、応用生物科学部からはご退職されました。現在は全学の立場で岐阜大学の発展にご尽力頂いております。また、同じく3月には応用植物科学コースの田中逸夫先生が定年により通常の職務からは退職されました。ただし、本課程が取り組む地域貢献プロジェクト「小津地区」を支援して頂くために

特任教授として、引き続きご貢献頂いております。新任の教員としては、本課程に関わる大きな取り組みの一つである飛騨牛繁殖センターを担当される大塚剛司氏が応用動物科学コース助教として和歌山県立医科大学より着任されました。教育・研究も併せて活躍を期待しているところです。管理運営面では、千家正照教授が連合農学研究科長、土田浩治教授が副学部長(企画評価担当)、小山博之教授が学長補佐、大学院担当教員である大場伸也教授がフィールド科学教育センター長、同じく大学院担当教員である粟屋善雄教授が流域研科学研究センター長とし

て、昨年度より引き続き活躍されております。また、応用植物科学コース長には山本義治教授、応用動物科学コース長には岩澤淳教授、環境生熊科学コース長には西村慎一教授がそれらの任に当たっております。

研究の成果としては、昨年度の近況報告以降、清水将文准教授と景山幸二教授が2017 IEEE 7th International Conference Nanomaterials: Application & Properties.において Best Poster Award、荒井聡名誉教授が食農資源経済学会学術賞、土田浩治教授・川窪伸光教授指導の原一颯さん(生物生産環境科学専攻学生)が第49回種生物学シンポジウム河野昭一ポスター賞、福井博一教授(現理事・副学長)が第68回岐阜新聞大賞「学術部門」、向井謙教授・安藤正規准教授指導の加藤敬介さん(生物生産環境科学専攻学生)が第129回日本森林学会学生ポスター賞、小山博之教授・須賀晴久准教授・清水将文准教授指導のMalek Marjanさん(生物資源科学専攻学生)がIOBC/WPRS Gold Award for Best Student Oral Presentation、須賀晴久准教授・景山幸二教授指導の山田健介(生物生産環境科学専攻学生)が日本菌学会第62回大会学生最優秀口頭発表賞をそれぞれ受賞されております。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(平松 研)

## ◆◆ 共同獣医学科

各務原同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年4月、共同獣医学科には6期生として70名（岐阜大学32名、鳥取大学38名）が入学しました。一方、1期生も6年生に進級したことから、いよいよ完成年度を迎えることとなります。そのため今年度からの卒業論文発表会は、「岐阜大学と鳥取大学との合同開催」として実施されることとなります。

さて、今年度最大トピックは、岐阜大学・鳥取大学大学院共同獣医学研究科の設置が認可され、来年4月に発足の運びとなったことです。同研究科の特色は、3つのスペシャリスト（家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト、One Health スペシャリスト、難病治療・創薬スペシャリスト）の養成を教育の柱として掲げている点です。詳細は共同獣医学科等のウェブサイト等で順次お知らせしますので、そちらをご覧ください。

もう1点のお知らせは、応用生物科学部棟の改修工事が始まったことです。これにより、現在は多くの教員が別室に退避している状況にあります。ご訪問いただいた際にはご不便をかけることもあるかと思いますが、どうかご容赦ください。

岐阜大学キャンパス内に移転した

岐阜県中央家畜保健衛生所との有機的連携を目指し設置された「家畜衛生地域連携教育研究センター（GeHAD）」も、各種講演会や鳥インフルエンザ防疫演習等を通じ、県域における家畜衛生体制の強化に向けたため努力を続けています。

昨今の報道にありますように、運営交付金の削減等により国立大学をめぐる諸環境は更に厳しさを増しております。しかし教職員一同、教育研究の質を下げることのないよう、日夜奮闘しております。つきましては、引き続き皆様方のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願いいたします。

（鈴木正嗣）

## ◆◆ 連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。はじめに、本年度は事務職員の大幅な異動がありました。国際担当の吉田智子氏は応用生物学部管理係に異動され、また、笠井与子氏が退職されました。また、留学生対応として栗本薫乃氏、事務補佐員として永田美矩氏を任用致しました。平成30年度は、千家研究科長、中野研究科長補佐（専任教員）他、事務の都竹室長、中峰係長、今井、高橋、戸本、栗本、永田が一致協力して本研究科の管理運営に努めてお

ります。

本研究科は平成3年度に発足して以来27年目を迎えることになりました。平成29年度の学位授与者数は課程博士15名（内、外国人9名）、論文博士2名（内、外国人留学生0名）でした。本年度の入学者は、定員20名に対して21名（内、外国人留学生8名）で、これに秋季入学の学生も加わります。現在、本研究科には、総数104名の学生が在籍しており、外国人留学生が56名（中国、インドネシア、タイ、バングラデシュ他、計11か国）です。

本年度の特徴的な取り組みを紹介致します。

まず、第1点目は、インド工科大学グワハティ校とのジョイント・ディグリー・プログラムについて文科省から6月22日に開設認可を受け、平成31年度4月から国際連携食品科学技術専攻を新設し、学生の受け入れ（定員2名）が決定致しました。現在、柳瀬笑子准教授を専任教員、上野義仁教授を専攻長として配置し、修士課程と連携を図りながら、本年度1月に入学試験を実施致します。

第2点目は、本研究科における教育研究の国際化をより進めるために、IGUINの加盟大学であるアッサム大学との大学間協定と、ラオス国立大学林学物との部局間協定を実現致しました。また、本研究科を平成11年度に修了したShirley C

Agripis氏が昨年度フィリピンのマリアノ・マルコス州立大学の学長に就任され、それを機にして当大学との絆を深めるために、9月10日に岐阜大学内で大学間協定の調印を行いました。本大学としても、フィリピンの大学との大学間協定締結は初めてのことであり、将来の教育・研究における連携が期待されます。

第3点目は、10月16日に本研究科が提唱しているIGUIN（南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム）の国際会議を実施し、国外の協定15大学の代表者を招聘し、過去6年間取り組んできた協働教育（ダブルディグリー、サインドイッチプログラム、国際シンポジウム）の効果と課題について意見交換し、今後の協働教育の方向性について検討しました。また、バングラデシュのバンガラデシュ農業大学とフィリピンのマリアノ・マルコス州立大学が新たにIGUINのメンバーとして加わることを承認し、その結果、国内2大学、国外17大学から構成される教育連携コンソーシアムに発展することになりました。

次に、本研究科が企画しているイベントについて紹介致します。

本年度も岐阜大学重点講座を9月22日に開催致しました。本年度のテーマは「肥料と育て方の工夫で野菜をおいしく作る話」で、3名の講師をお招きし、有用菌、お茶の栽培、土壌診断について講演頂きました。

海外修了生のフォローアップ、共同研究の創出、研究ネットワークの構築を目指して、岐阜大学で国際研究シンポジウム、海外での研究ワークショップを開催しました。10月17～18日には岐阜大学内で「Animal Production and Conservation for Sustainable Development」(APCS)国際シンポジウムを開催し、本学の教員だけでなく、海外の大学や研究機関で活躍している修了生を招聘し、情報交換を行います。

12月3日～4日にはインドネシアのランポン大学で「作物栽培(仮題)」について、研究ワークショップを開催する予定です。現地および本研究科の大学教員や現地企業の研究者による研究紹介と情報交換、現地企業の視察などを通じて、新しい共同研究の創出を目指しています。

以上のようなシンポジウム、ワークショップの開催テーマは公募制を採用し、本研究科教員から提案のあったテーマの中から、緊急性、重要性、実現性を考慮して決定致します。いずれも、海外で活躍する修了生のフォローアップと研究ネットワークの構築を目指した企画であります。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

（千家正昭）

各務同窓会報

◆◆ 連合獣医学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜びを申し上げます。平成29年度の本研究科の学位授与者数は、課程博士18名および論文博士11名の計29名でした。日常業務と研究活動を続けられた多くの社会人の方に論文博士を授与しました。また、本年4月に連合獣医学研究科として最後の入学者11名を受け入れられました。岐阜大学配置学生のみとしては例年に比べて多くの新入生を迎えることができました。新入生の多くは社会人で、卒業後の継続的な教育に対する要望が強くなっていることが伺われます。

岐阜大学を除く本研究科の構成校は、帯広畜産大学大学院畜産学研究科獣医学専攻（募集人員5名）、岩手大学大学院獣医学研究科と東京農工大学大学院農学府共同獣医学専攻（募集人員岩手5名、農工大10名）として新大学院の新入生を受け入れました。本研究科所属の学生が新大学院の学生と机を並べて研鑽する日々が始まっています。

国際貢献に係る幅広い人材育成を目指します。来年度からは岐阜大学においても、新大学院の学生の受け入れを開始し、他の大学と同様の状況となつていきます。

本研究科の在学生の全てを修了させるまで、基幹校としてこれまで同様、社会に貢献する人材の育成に務めてまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（浅井鉄夫）

◆◆ 附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて本年度は、これまで各方面の方々のご協力を得ながら進めてきた美濃加茂農場での飛騨牛繁殖研修事業の形が見えてきました。岐阜県と全農岐阜と岐阜大学の3者で、美濃加茂農場に黒毛和牛の繁殖と新規担い手の育成を行うおとするものです。年度内に180頭の

収容の牛舎が建設される予定です。柳戸農場と美濃加茂農場では、これまで同様に教育研究のより一層の支援と農場の公開活動、生産物の販売強化を行っています。柳戸試験林では施設整備が進み、また位山演習林では実習用テキストの制

作を通じて、全学的な実習教育への貢献が図られています。今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（大場伸也）

◆◆ 動物病院

本年度より森が動物病院院長を拝命致しました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

動物病院の現況につきましてお知らせ致します。まずは人事については西田英高助教が3月いっぱいですが神経科を担当されておりまして大阪府立大学へ准教授として栄転されました。岐阜大学としては残念なのですが、これからの活躍をお祈りしております。

動物病院の収入も徐々に増加しており、現在ほとんども大学教員のみで対応できる状態ではありません。岐阜大学に限らず教員以外の獣医師の確保が、全国の大学附属動物病院での喫緊の課題となっております。そこで、少しでも労働条件を改善するために、本年より非常勤扱いであった勤務獣医師のほぼ全員を、常勤獣医師として雇用契約を

変更致しました。すでに動物看護師についても常勤へ変更しており、今後さらに安心して長期間勤務して頂けるような労働環境作りを進

めていき、他の大学附属動物病院の見本となるよう努力して参りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（森 崇）

◆◆ 野生動物管理学研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

岐阜県の寄附による寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」を中心にご報告させて頂きます。本部門は2年目（寄附研究部門としては2期目7年目）を迎え、研究に加え普及啓発や人材育成の機能をさらに強化しました。昨年度から始めた連続講座「野生動物を知る」につきましては、今年度も8回の開催を予定しております。

例年どおり岐阜県教員免許状更新講習の講義のほか、野生動物管理学研究センターの提供授業（野生動物物管理学入門）も継続しております。

県内の行政職員に向けては、岐阜県が開催する「鳥獣関係行政担当者被害防止捕獲研修会」への対応を行いました。7月7日に開催された「金華山イノシシ対策シンポジウム」街（まち）のイノシシを知る（主催：岐阜市金華山一

帯のイノシシ被害対策協議会）におきましても、講師等を派遣しております。

以上のとおり、センター員一同、鳥獣に関わる多様な取り組みを精力的に進めております。同窓の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

（鈴木正嗣）

◆◆ 共同獣医学教育開発推進センター

平成25年度に設置されました鳥取大学との共同獣医学科が6年目を迎え、いよいよ最初の卒業生を輩出する年となりました。今年度は11月末に鳥取大学と岐阜大学の卒業論文発表会を合同で開催する予定であり、遠隔講義システムにより双方の発表を教員および学生が聴講します。このように両大学による研究指導が可能となり、これまで以上に充実した発表会になるものと期待しております。

共同獣医学教育開発推進センターでは、両大学間の教育を有効かつ円滑に推進するとともに、共同教育方法および教育内容を改善・開発し、その情報を発信することにより獣医学教育の質の向上・発展に寄与することを大きな目的としています。センターでは、昨年度よりこれ

までの共同教育カリキュラムについての検証を開始し、その結果に基づいて次期の新しいカリキュラム編成に對する提言をしたいと考えております。これまでに、遠隔講義システムを使用した授業や学生移動型の授業について、学生に対する授業評価を実施してきました。また、教員に對しても現在のカリキュラムについてアンケート調査を実施いたしました。今年度はその結果を取りまとめ、これまでの共同教育の問題点や改善点を洗い出し、次期カリキュラムの改善へ繋げたいと考えております。今後とも皆様のご支援を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

(海野年弘)

◆ 附属家畜衛生地域連携  
教育研究センター  
(GeFAH、ジーンファ)

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター

(Education and Research Center for Food Animal Health, Gifu University、略してGeFAH、ジーンファ)は、岐阜県と連携し家畜衛生教育と研究を推進することを目的とし、2015年4月に設置されました。主な業務内容として、(1)家畜衛生の教育に関すること、



(2)家畜疾病等の学術研究に關すること、および(3)家畜の防疫・保健衛生対策に關すること、を掲げ、家畜感染症対策部門と家畜飼養衛生管理部門との2つの部門で組織されています。2017年6月に岐阜大学キャンパス内に岐阜県中央家畜保健衛生所・高度病性鑑定センターが移転し、その3階にGeFAHの実習室、研究室、解析室が入り、教育と研究の連携・活動が本格化しました。地域の他大学との連携教育も実施しています。GeFAHでは今後、連携を中部地区へと拡大し、家畜衛生教育と研究の中核拠点となることを目指しています。

今後とも同窓の皆様のご指導とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。(GeFAHのホームページをぜひご覧下さい。http://www.abios.gifu-u.ac.jp/gefah/)

(猪島康雄)

### 教員の異動

#### 定年退職

H31.3.31  
共同獣医学科  
阿閉 泰 郎

H31.3.31  
共同獣医学科  
柳 井 徳 磨

#### 昇 任

該当なし

#### 採 用

H30.3.1  
共同獣医学科 応用獣医学 助教  
西 山 祥 子

H30.4.1  
生産環境科学課程 応用植物科学 教授  
山 田 邦 夫

H30.4.1  
生産環境科学課程 応用動物科学 助教  
大 塚 剛 司

H30.4.1  
共同獣医学科 基礎獣医学 助教  
尾之内 佐 和

H30.8.1  
共同獣医学科 臨床獣医学 助教  
岩 田 宗 峻

### 新任教員の あいさつ



西山 祥子

2018年3月1日付で応用生物科学部、共同獣医学科、人獣共通感染症学研究室の助教に着任いたしました。私は、2010年に麻布大学を卒業後、2013年に英国、エジンバラ大学で博士号を取得いたしました。さらに、より深くウイルス感染症を学ぶため、米国、テキサス大学医学部と北海道大学、獣医公衆衛生学教室に研究員として勤務した後、現職に至りました。岐阜大学は教員と学生の距離が近く、学生の個性を活かした教育を行っていると感じ、大変感銘を受けております。また、研究室間でコミュニケーションを持つ機会も多く、新しい発想の生まれやすい理想的な研究環境であると考えております。このような場所での研究と教育に携われることをとても嬉しく思っております。

現在、世界では動物の健康が人の健康にも繋がっているという「one health」の概念が注目を集めており、私は人獣共通感染症学がその中心にある学間であると思っております。そのため、私はこれまでの経験を生かして、人獣共通感染症を制御、撲滅するために有効なワクチン、治療法などの開発に努めていきたいと考えております。さらに次世代の獣医学を担う人材育成にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。まだまだ至らないことも多く未熟ではございますが、岐阜大学の更なる研究力と教育力の向上のため、誠心誠意努力していきたくと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。



山田 邦夫

平成30年4月1日付で、応用生物科学部生産環境科学課程応用植物科学コースに教授として着任しました。研究分野は園芸学で、主にバラを材料として花卉成長機構の解明を目指し、その成果を切り花の日持ち性向上に応用すべく研究に取り組んでいます。私は名古屋市で生まれ育ちましたが、幼少の頃より昆虫好きで昆虫採集や標本作りなどを趣味としていました。高校生のころ利根川進先生のノーベル賞受賞に感化されバイオ研究を目指すようになり、気が付けば



大塚 剛司

本年度4月より、応用生物科学

昆虫から植物へと興味の対象が変わっていました。名古屋大学農学部に入学後、恩師との出会いによって園芸学研究を志すことになり、大学院生時代はリンゴなどの糖代謝について研究をしていました。バラの研究は博士学位取得後、農林水産省野菜・茶葉試験場でのポストドク時代からスタートさせ、その後名古屋大学・中部大学においてもバラに囲まれた研究生生活を20年近く送ってきました。バラの研究を始めた頃に名古屋から岐阜市に移り住みましたので、岐阜での生活もまもなく20年となります。自然豊かな街(適度な田舎?)がとても気に入ってすっかり岐阜人となった今、岐阜大学で教育・研究・社会貢献に携われることにとてもやりがいを感じています。私自身が大学生時代に恩師から大きく影響を受けたように、私もこれから学生たちに少しでも「何か」を感じて成長してもらえような教育を心がけていきたいと思っております。皆様方からの温かいご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

部生産環境科学課程の助教に着任いたしました、大塚剛司と申します。動物生産管理学研究室および美濃加茂農場における飛騨牛繁殖研修事業を担当することになりました。よろしくお願ひいたします。私は生まれも育ちも東京で、その後は大学(ポストドクまで)神奈川、福岡、和歌山と各地を転々としていました。その間、私は一貫してマウスを用いた体内時計の研究を行い、東京農業大学農学部では野生のマウスを用いた血中コルチコステロンの概日リズムに関して、九州大学大学院生物資源環境科学府ではマウスモデルを用いたストレス・情動の光周性制御機構の解明、和歌山県立医科大学医学部では時計遺伝子KOマウスの情動制御機構の解明に着手しております。このように、マウスモデルを用いた生理学的なメカニズム解明がメインであったため、大型畜産動物の扱いは全くの素人ではありますが、これまでのように体内時計を絡めて、飛騨牛の生産管理に関わる研究を行いたいと考えております。また、岐阜県、JA全農と共同で行う飛騨牛繁殖研修事業は、岐阜県内の和牛繁殖農家の担い手を育成することで飛騨牛生産基盤を強化し、地域活性化を促す狙いがあります。そのため担当者としての責任は重大であります、やりがいもありますし、誠心誠意

取り組んでいく所存です。大学教員としては新米ですので、まだまだ学生のように学ばなければいけないことも数多くあるかと思いますが、自然の多いこの岐阜大学で研究・教育・研修事業に取り組んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



尾之内佐和

平成30年4月1日付で応用生物科学部共同獣医学科獣医解剖学研究室の助教に着任いたしました。私は平成28年に北海道大学大学院獣医学研究科(当時)より博士号を取得し、地方衛生研究所である大阪健康安全基盤研究所(大安研)の研究員を経て、現在に至ります。岐阜大学は私の母の出身校(当時は農学部獣医学科)ですので、何かの縁があったのかと感慨深く思います。

私は学生時代も獣医解剖学研究室に所属し、マウスの胎子腸管で、特に十二指腸空腸曲という部位について屈曲形成機序の解明を目的に研究しておりました。自分で考えたテーマだったこともあり、非常に充実した研究生活だったと思



岩田 宗峻

平成30年8月1日より共同獣医

実習と獣医組織学実習に手伝いとして参加し、自身の技術向上と共に学生に教える楽しさを学びました。大安研に就職する際には「十二指腸空腸曲と獣医解剖・組織実習のない人生」になることが非常に残念でした。一方で、大安研では節足動物媒介性感染症の検査・研究という新たな分野で、大学とはまた別の、一般社会の考え方に触れることができました。この度、縁あって岐阜大学に着任し、「十二指腸空腸曲と獣医解剖・組織実習のある人生」が再び戻ってきました。ただ解剖学や研究の楽しさを教えるだけではなく、社会からの視点も意識しながら、学生に指導できるようにになりたいと思っております。未熟ではありますが、今後のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

その後は小動物臨床に3年間従事し、平成29年からは大阪府立大学獣医臨床センターに勤務しておりました。専攻は整形外科および神経病学で、研究テーマとしている変形性関節症と椎間板ヘルニアはヒトと同様に犬においても症例数の多い疾患です。今後の課題として、変形性関節症および椎間板変性に関連する遺伝子の探索と、それらに対する新規治療法の開発に着手したいと考えております。動物病院での業務から学ぶ臨床的背景を研究に活かしながら、獣医療だけでなくヒトの医療にも貢献できるように仕事を展開することを目標としております。またそれらを学生の方々に体験してもらうことで、多くの学びと成長の場を提供できればと考えています。岐阜には何度か訪れたことがあり、緑豊かな森林と美しい清流を堪能し心洗われたことが印象に残っております。ご縁があつて岐阜大学に着任させて頂きましたので、本学の発展に貢献できるように日々研鑽に努める所存です。皆様方にはご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 教員・旧教員の受賞

|       |      |                            |            |
|-------|------|----------------------------|------------|
| 猪島 康雄 | 教授   | JVMS優秀論文賞2016              | 平成29年9月14日 |
| 高須 正規 | 准教授  |                            |            |
| 石黒 直隆 | 名誉教授 |                            |            |
| 中野 浩平 | 教授   | 農業食料工学会関西支部賞               | 平成29年11月3日 |
| 長野 宏子 | 名誉教授 | 日本DNA多型学会優秀研究賞             | 平成29年12月1日 |
| 鈴木 徹  | 教授   |                            |            |
| 福井 博一 | 教授   | 第68回(平成29年度)岐阜新聞大賞受賞〔学術部門〕 | 平成30年2月10日 |
| 山内 恒生 | 助教   | 第29回日本木材学会奨励賞              | 平成30年3月15日 |
| 猪島 康雄 | 教授   | 第24回日本野生動物医学会大会優秀口頭発表賞     | 平成30年9月2日  |
| 川窪 伸光 | 教授   | 日本学術振興会 平成29年度             | 平成30年9月10日 |
| 土井 守  | 教授   | 特別研究員等審査会専門委員(書面担当)表彰      |            |
| 今泉 鉄平 | 助教   | 2017年度日本冷凍空調学会年次大会         | 平成30年9月6日  |
|       |      | 日本冷凍空調学会賞優秀講演賞             |            |
| 今泉 鉄平 | 助教   | 農業食料工学会 研究奨励賞              | 平成30年9月10日 |

## 退職予定者のあいさつ

人生はまわり道

岐阜大学 柳井 徳磨



人には様々な人生があり、ます。私の場合、まわり道の人生

であったと思う。私は、昭和52年には宮崎大学農学部獣医学科を卒業し、東大大学院を経て、三共株式会社(現第一三共)に入社し、新

薬の安全性研究に12年間従事した。平成4年に縁あって、岐阜大学農学部助手として移籍した。その時、周りから、大学教員の給与水準は極めて低く、研究費も微々たるものと脅かされたが、自然例を対象とした疾病研究や自由な発想での研究を求めて、あえて岐阜大に移った。赴任後は、直ちに平井克哉教授が率いられた「中部山岳地帯の野生動物の生態と病態からみた環境汚染の研究」というプロジェクトに参加し、野生動物の病態研究に積極的に取り組んだ。平井先生の「汗を流せ」という現場主義の薫陶は、その後の研究生活に少なからず影響した。当時は、野生動物医学の興隆期で、岐阜大学は

加わり、後に事務局長として会長を補佐し、同学会の基礎固めに努めた。平成19年からは「アジア野生動物医学会」(現在、アジア保全医学会)を設立し、同学会の理事長として、現在までアジアにおける野生動物の保全研究のネットワーク確立に努めている。毎年、途上国を含めアジア各国を巡って学会を開催するので、責任者として、開催に向けて様々な課題を解決する必要があり、そのために、開催国を何度も訪れた結果、文化もより深く理解し、様々なネットワークをアジア各国に築くことが出来た。平成31年からは世界的な野生動物医学のネットワーク「Wildlife Disease Association (WDA)」のアジア・太平洋支部を設立し、その代表(Co-Rep)として、アジアにおける野生動物疾病のサーベイランスのネットワークの確立に努める予定である。

研究テーマとしては、サル類を含めた野生動物の保全に関する研究特に野生動物におけるヘルペスウイルスおよび抗酸菌症の感染病理学研究を行い、海外の研究者との共同研究も進めた。特に、平成5年に動物園で斃死したトムソンガゼルを剖検し、その脳材料から福士秀人先生が世界で初めてウマヘルペスウイルス9型(EHV9)を分離以降、福士先生と共同で同ウイルスの感染病態を20年に亘り研究、その間、EHV9に関する学術論文20報以上と同ウイルスをテーマとした4人の博士号授与者を得たことは忘れ難い。また、EHV9は研究室間の連携の重要性を教える

研究活動としては、平成4年に「日本野生動物医学会」の設立に

私の英語が完全ではないので、努めて電子メールだけではなく、実際にアジア各地の関係者を何度も訪問し、自分の目で現地の実態を確かめながら、Face to Faceで信頼関係を深め、学会開催に向けて密なネットワークを築いてきた。自分の英語力の不足が、Face to Faceのコンタクトを必要とし、逆に強力な信頼関係の確立につながったと思う。若き日に平井先生の飛ばされた「汗を流せ」という激に従い、黙々

動物医学の興隆期で、岐阜大学は

を走っていたが、結果的に研究拠点となる「野生動物病態研究所」を実現できなかったのは、とても残念である。平成9年には、心機一転、米国ボストンのハーバード大学医学部霊長類センターから客員准教授として招聘され、当時、我国にはほとんどなかったサル類を用いたAIDS研究を行うと共に、米国の歴史や文化、さらに訴訟社会も垣間見ることが出来た。

「汗を流せ」という激に従い、黙々

各務同窓会報

と目の前の課題をこなしてきたが、本当に何も無駄なことは無かったという感慨が正直なところである。次は、もう一つの激である「死ぬまで勉強しろ」に挑戦し課題としたい。

これから

阿閉 泰郎

卒業生の皆様は、ご健勝で、各方面にて活躍のこととお察しいたします。応用生物科学部は現在B棟のリフォームの最中で、私の研究室は仮住まいの建屋（工学部総合研究棟II）に移転しています。岐阜大学農学部が各務原キャンパスから岐阜市黒野のこの地に移転したのは、30年以上に遡ること昭和57年の夏休みでした。旧キャンパスの獣医学科の建物は木造平屋とプレハブ2階建てでしたが、新キャンパスでは真っ白な鉄骨コンクリートの7階建てビルへと変わりました。移転当初、キャンパス内の建物周囲の歩道は未舗装で、雨が降るとぬかるみでした。大学の周辺は、田んぼや畑で囲まれており、市郊外のためバス通学や学生生活が不便でした。徐々に開発が進み、岐阜市内の環状線道路が完成すると、大型のショッピングセンター、衣料品店、家電量販店、食料品店等が開店し、学生用アパートも充実してきました。そ

れから、月日が経ち、大学の研究室等の補修が必要となり、改修にいたっています。時の流れは速いものです。私が岐阜大学に赴任したのは移転の引越しが終了した昭和57年10月のことでした。この度、岐阜大学を去る時（平成31年3月）も仮引越しの最中であり、岐阜大学への出入りには引越しの縁があるようです。着任以来、杉村誠教授や鈴木義孝教授とともに家畜（獣医）解剖学教室でお世話になりましたが、定年となり次世代へとバトンを引き継ぐこととなります。この間、一人一人の顔が思い出せないくらいの数多くの卒業生に接し、研究（ニホンカモシカ、犬、鳩など）と教育（肉眼解剖学と組織学）に携わられたことは幸せな者だと切に思っています。空調設備が良くない解剖棟での肉眼解剖実習では、冬に雪の降った寒い日に、また夏の暑い時に実習を行ったこともありましたが、皆さんよく頑張りました。加えて、アジアからの留学生が大学院で学ぶようになり、田舎大学でも国際性が出てきました。教育に関しては三楽ではなかったかとしみじみ感じています。卒業生の皆様におかれましては、今後も健康で、岐阜大学を誇りに思い、心のままの人生を歩まれることを祈っています。

退職者記念事業のお知らせ

柳井徳磨教授

定年退職のお知らせ

共同獣医学科獣医病理学研究室の柳井徳磨教授は平成31年3月をもって定年退職されます。先生は宮崎大学農学部をご卒業後、東京大学大学院農学系研究科を修了し、三共株式会社で創薬研究に携わられました。平成2年に農学博士号を取得された後、平成4年に岐阜大学農学部助手として着任され、その後、助教授に昇任、平成19年から教授として活躍されました。先生の研究の大きな柱をなす野生動物医学研究においては、現在までアジア野生動物医学理事長およびアジア野生動物病理／寄生虫病学会理事長に就かれ、アジアの野生動物医学の発展にご尽力されています。これらのご功績に対し、平成25年には「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰（国際貢献部門）を受けられました。また、毒性病理学のご経験を生かし、内閣府・食品安全委員会専門委員を歴任され、さらには製薬関連企業の数多くの社会人大学院生を指導し、博士号の取得を推進されました。その他の先生の獣医病理学における多大なる業績は

枚挙に暇がございません。

先生のエネルギーシユなお人柄から生み出されたこれまでのご功績とご指導に対して、心から感謝申し上げるとともに、退職後のご健康とさらなるご活躍をお祈りいたします。

なお、先生のご意向に沿って特別な最終講義は設定しておりませんので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

（酒井洋樹）

阿閉泰郎教授

定年退職のお知らせ

共同獣医学科獣医解剖学研究室の阿閉泰郎教授は、平成31年3月をもって定年退職されます。

先生は、岐阜大学農学部を卒業後、神戸大学医学部で博士号を取得され、昭和61年に岐阜大学農学部獣医学科家畜解剖学講座に助手として着任なされました。その後、平成2年に同講座准教授、そして平成15年に同講座教授に就任なされました。平成16年からは学部改組により、岐阜大学応用生物科学部獣医学課程獣医解剖学研究室の教授として、そして平成25年

からは鳥取大学と共に設置された共同獣医学科の獣医解剖学研究室の教授として、めまぐるしく変化してきた教育研究情勢に対して、常に先頭に立って研究室運営に邁進なされました。厳しい改善・改革が求められてきた大学運営の中で、先生は入試委員会や教学委員会など数多くの委員そして委員長を歴任され、本学および本学部の発展に貢献なされました。

多忙な大学業務の中、解剖学の分野では「Top Journal」の範疇に入る「Journal of Comparative Neurology」を主軸に、100を超える論文を発表なされました。また積極的に外国人留学生を受け入れて熱心に指導なされ、誇らしい論文と博士号を手土産に持たせて帰国させました。彼らの中にはその論文を元に、さらにポスドクとして再び外国へ留学する機会を得ることができた方も多く、先生に非常に感謝しております。先生にこれまでのご功績・ご尽力に対し心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

（斎藤正一郎）



# 同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回優秀な学生の日頃の努力を顕彰する

目的で平成19年度に設立されました。平成29年度も各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究科の学生の中から次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）  
応用生命科学課程 高橋 知里  
生産環境科学課程 大澤 拓巳  
共同獣医学科 井 芹 晴 香  
応用生命科学専攻 森 山 章 弘  
生物環境科学専攻 大 澗 恵 子

懸命に取り組んでいく所存です。

井 芹 晴 香

この4年間はあつという間の日々でありました。現在修士課程に進学し、講義、研究、インターシップなど忙しくも充実した毎日をご過ごしています。今後も専門知識をもった技術者を目指し、研究、勉学に努めて参ります。

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞を頂き、誠に光栄に存じます。熱心にご指導頂いた先生方や先輩方、そして、苦楽を共にした同期の皆さんに心より感謝申し上げます。

大澤 拓 巳

同窓会長賞という形で大学の活動を評価していただき、非常に嬉しく思っています。もともと生物学が好きで応用生物科学部を選択したため、どの講義もとても興味深く受講することができました。研究室での活動では、先生・先輩方の熱心なご指導のもと、一年生の頃から興味のある研究に打ち込みました。修士課程での二年間も実り多いものができるよう、これからも研究をはじめ各課題に一所

高橋 知 里

この度は同窓会長賞という栄えある賞を頂き、誠に光栄に存じます。

森 山 章 弘

この度は、同窓会長賞という

栄えある賞を頂き、誠に光栄に存じます。今回受賞できたのは、先生方、同期や先輩後輩、家族の支えのおかげであります。心より感謝申し上げます。

また3年次より参加しているIGEM（合成生物学大会）では研究活動にご賛同いただき、同窓会から多大なご支援を賜っております。改めて御礼申し上げます。修了後は博士課程へと進学します。この素晴らしい賞を励みに、今後も研究活動に勤しんで参ります。

大 澗 恵 子

日ごとに秋も深まってまいりました。大学院を卒業し、半年が過ぎました。今は、新社会人として、食品や健康食品にかかわる企業で新しいことを学ぶ毎日を送っております。慣れないことも多く、苦勞も多い日々ですが、大学や大学院で学んだことや同窓会長表彰を受けることが出来たということへの自信をもって、今後も社会人として、色々なことを学んでいきたいと思っております。改めて、この賞を頂いたことを光栄に思います。ありがとうございました。

# 吉寄基金

## 平成29年度受領者報告

### 母乳哺育乳児の腸内細菌叢の変遷に関する基礎研究

稲垣 瑞穂

赤ちゃんの腸は、善玉に分類されるビフィズス菌が最初に定着し、離乳食の開始に伴い大人と似た腸内細菌叢が形成されると言われています。育児中の知人とのたわいもない会話の中に出てきた「母乳しか飲んでないのに赤ちゃんのウンチが毎日違うように感じるのよね」のことが気がかりになり、離乳食開始前の母乳哺育乳児にどのような腸内細菌が棲んでいるのかを調べてみました。知人の一言から始まった研究から、母乳（同じ食べ物）を口にするだけでも赤ちゃんの腸内細菌叢が刻々と変化することを示唆する興味深いデータを得ることができました。乳児期に獲得した腸内細菌叢はその子の健康を支える基礎となることから、今もボランティア数を増やして検証しています。近い将来、本

研究成果を乳幼児の腸内細菌叢の新しい知見として世界に発信できるように精進してまいります。

最後に、小職の米国留学の中止に伴い、研究テーマを変更致しましたことを合わせてご報告させていただきます。吉寄様の篤志に支えられて乳幼児研究の第一歩を切り拓くことができたことに心より厚く御礼申し上げます。

### 富有柿の乾燥工程の効率化

今泉 鉄平

平成29年度に吉寄清己研究支援により、富有柿の最適乾燥法に関する研究に対してご支援いただきました。岐阜大学に着任して間もなく、このようなご支援をいただくことができ、乾燥実験における研究環境を整えることができました。

本研究では、前処理操作の追加により富有柿の乾燥にかかる時間を短縮可能であることを見出し、さらに、内容成分や食感への影響について解析を進めております。

また、昨年度の成果をもとに、前処理だけでなく乾燥方法の検討も進めていく予定です。富有柿は、岐阜県を代表する農産物の一つで、高品質なドライフルーツを低コストに製造することができれば、県内農業の6次産業化を後押

しすることができると考えます。本研究の成果がこのような形で社会へと還元できるような今後も研鑽を重ねていく所存です。

最後になりましたが、ご支援いただきました吉寄清己さまに心より感謝申し上げます。

### C19 吉寄清己研究支援寄附金の平成30年度受領者

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己様の篤志により、平成19年度から「吉寄清己研究支援寄附金」として、応用生命科学課程教員の研究を支援して頂いています。ご遺族様から、ご逝去後もご援助を継続して頂けるといふ吉寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂きました。

本年度は、島田昌也准教授の「脂肪肝および肝障害に対する日本酒特異成分α-エチルグルコシドの持続的予防効果の検討」と、橋本美涼助教の「脳内神経ネットワーク構築メカニズムの解明」に、それぞれ500,000円のご支援を頂くことになりました。両先生には、吉寄様が望んでおられる「応用生命科学課程の名声を高める研究」に邁進頂ければと思います。

## 支部会員からの便り

### V大7回生の歩んだ路のり

我々V大7回生はS34年(1959年)3月、26名が卒業し翌年から毎年一度も休むことなくクラス会を続けて来ました。当初は岐阜を振り出しに愛知・三重・滋賀・静岡・関東と順に幹事が責任を持つて夏から秋に開催して参りました。

お蔭様でその地区の幹事の配慮で珍しい旅館やホテル等で美味しい料理を堪能することが出来、又60代の頃は昼はゴルフ組と観光組、夜は宴会からマージャンと囲碁・将棋に分かれ朝迄語り飲んで過ごすのが当たり前の状況で、或る時に



は自販機の酒が売り切れた時もありました。

珍しいことは26名の中でアルコールが苦手な人は3名ぐらいで、中には社会人になって只酒で強くなった人も…全く飲み助揃いのクラスで集まると勉強の話はせず。飲むことしか知らない、そしてどれだけ飲んでも乱れたり口論一ツした事のない仲間ばかりでした。しかし此10年程前(70才を越えて)から1人々2人減りして遂に昨年58回目の出席者は写真の通り(関東4の②・愛知7の⑥・岐阜3の③・三重1の①)計11名になってしまいました。寄る年波には勝てず淋しくなりました。現段階での生存者は15名で鬼籍者11名です。我々の年代は戦前・中・後に渡り父親が戦死して今という母子家庭の人も可成おられました。今、様に社会的援助もなく就職時期が来ても焦る人もなく本当に良き仲間でした。卒業後は色々な方面に散り、ドイツに留学し帰国後暫くして芸術大学の学長を3期務めた人とか、酒が強い為或る有名商社の重役に着いた人、或は傍系会社の社長等々、又社会的には公表が悪い話ですが総会屋の道を歩んだ仲間も1人居り全く我々のクラスは種々雑多な連中が集まっています。

話は前後しますが、在学4年生の後期、或る先生(当時助教)の講義が余りにも旧態依然な為、新しい話題を入れて欲

しいと要望するも聞き入れて貰えず、その先生の試験時、各自名前だけ記入し全員が白紙回答で提出した。教授会で大問題となり、首謀者は退学と言われ、それならば全員が退学届を提出すると言うことになり、結果は喧嘩両成敗で再試験を受け一件落着となりました。

今年も10月16〜17日第59回目のクラス会を長良川河畔の「十八楼」で開催しま

## A T 10会開催

近藤 隆

昭和25年から毎年開催しましたが、ここ数年休んでいました。そこで私が最後の会として開催しました。

出席者6名平均年齢88歳は体調良好ではないにしても久し振りの笑顔に接して本当に良かったと思います。

亡き友11名にもなり残念でなりません、安らかに、と全員で祈りました。

## 東京E科会会員の近況2018

東京E科会 柴田 知広

4月25日開催の東京E科会への出席者は4名でしたが、S23卒の大先輩から今年の定年退職者まで会員全員(21名)から近況を寄せていただきましたので、

した。来年で60回目(卒後の還暦)を迎えますが、来年を節目にしようかとの意見も出て居ります。岐阜大学を卒業された皆さんの中で此れまで毎年続いたクラスが他に有ったでしょうか。もしあったとしたら何等かの形で報告頂ければ有難く思います。

余命幾許も無き中の1人  
V大7代表 駒澤 修

会を時を忘れ大変有意義な語らいとなり最高でした。最後に校歌、寮歌を歌い学校生活、寮生活を思い出して最高の会でした。「と」突然これは最後ではない、来年もと言いついて全員賛成し、来年4月に同じ「岐阜キャッスルイン」で開催することにしました。又元気が出ました。最後に、各務同窓会と岐阜大学の前途を祈念いたします。

その一部を紹介します。

「84才になり、年間60ラウンドのゴルフで、クラブ競技でのエイジシュート達成回数も76回、来年は年(エイジ)を越える予定です。」(S31卒)、「何も無い白い壁に後輩が送ってくれた盛岡平野の空



後列 小澤與宏 (S53卒) 小森清和 (S53院卒) 柴田知広 (S50卒 幹事)  
前列 千家正照 先生 塩田克郎 (S47卒 会長)

## 支部総会を終えて 愛知県高等学校教員支部

支部長 鴉飼愛一郎

中写真が写ったカレンダーを張ってながめていると、昔のいろいろなことが頭を過ぎります。」(S23卒)。当会は、農林水産省や関東各県庁等に在職していた者の

近年は6月の第3週の土曜日に支部総会を行っています。今年も半田農業高校が幹事となり、去る6月23日(土)に半田市内で開催しました。名簿には100名を超す会員が登録されています

集まりですが、「東京E科会が私が東京に赴任した昭和38年頃設立したもので、人が少なく関東局管内の人たちを含めて設立をお願いしたものです」(S28卒)との苦労話がありました。

最近の定年退職者は「昨年10月にジェネコンに再就職し、週4日間は名古屋から京都営業所に新幹線通勤、残り1日は名古屋支店勤務です」(S54卒)や「農政局に再任用され、積算システムで業務の積算書を作成しました。積算は20年振りだったので、若い係長さんに聞きながら何とかできました」(S54卒)とさまざまです。

大学に対しては、「母校と名古屋大学との合併(?)の話が載っていますが、岐阜の名は残したいものですね!」「大事も学部名が変わり、なじみがうすくなって来ました」。毎年「詳細な報告を有難う存じます」との一言を励みに幹事を務めています。

が、出席者は限られるようになり、近年はそのうちの2割程度です。とりわけ、諸先輩の出席が叶わなくなったことは寂しい限りです。

私が校歌を歌えるようになったのは、残念ながらこの支部総会に出席するようになってからです。卒業後、同窓が集まる会

への参加にそれほど頓着していなかったのですが、同僚から誘われ出席してみると、先輩の号令で、大きな声で校歌や凜真寮歌を歌う伝統が紡がれていました。初めは歌うことができませんでしたでしたが、いつしか歌えるようになり、歌うと学生時代の思い出が脳裏に浮かぶようになりました。顧みれば、私が3年生の時に現在の校地に大学は移転しました。そのため、4年生や院生の移転の苦労を余り分らないまま、新しい校舎で思う存分学ぶ(遊ぶ)ことができました。大らかな先生方との思い出も育みました。何と懐かしく、楽しかったことか。そんな私にも定年の足音が聞こえるようになり、支部総会への参加は、いつしか楽しかった頃の思い出を振り返る癒やしの一時になりました。あと何年、この会に出席できるのだろうか。年齢を重ねるたびにそんな思いがこみ上げてきます。

お世話になった大学も、来年は創立70周年を迎えます。学部は今年95周年です。各務同窓会を支える支部の一つとして、活動やその在り方について考える時期かもしれません。

今後も育てていただいた諸先輩に感謝することを忘れず、会員相互の親睦を含め実り多い活動をしていきたいと思えます。



## 農芸化学科第30回同窓会

C大30 本田 裕

平成30年8月12日、農芸化学科第30回(昭和57年3月卒業)同窓会を恩師であります河合啓一先生をお迎えして開催しました。総勢20名を超えるみなさんにご参集いただき、最後の那加キャンパス卒業生として過ごした青春時代の懐かしい話が咲きました。当時は誰もが永田幸雄先生の講義で用された教科書、ワトソン・クリックの著書「生化学」に掲載された二重らせん構造の向こうに科学の光明をみつけ、時間の経つのも忘れて木造校舎の一角で友と実験に没頭していました。また、我々の卒業年度は同じ研究棟にありました工業化学科が黒野へ移転したため、学科単独の棟となりました。このため帰属意識が高揚するとともに棟内の交流もさらに深まり、純粹に農芸化学科の6研究室が和気藹々と学生生活を謳歌していました。そして時は流れ、私たちは学友でありました石田秀治教授の多大なるご支援により、懐かしい出会いの場を提供していただくことができましたことに感謝の意を表します。

ご都合により今年の参加が叶わなかった同窓生も多数おみえになると伺っております。平成31年は青春を謳



歌した思い出の地、岐阜にて開催。8月12日に再会することを決めました。今回の同窓会開催をお伝えできなかったり、都合によりお会いできなかったみなさん、ぜひとも万障お繰り合わせのうえ、来年はご参加くださいますようお願いいたします。

同窓会にて旧友との交流が行われるとともに、岐阜大学の後輩のみなさんが科学への探究心を持ち続けることができるようお力添えするため、各務同窓会と幾久しく関わりを持ち続けていきたいと思えます。

## 嶋崎藤雄先生を偲んで

「大学で一番学ばないといけなのは、人間学である。」を信条とされていた嶋崎藤雄先生が遂に逝ってしまわれました。

昭和元年に生誕、昭和から平成のほぼ最後まで激動から大変革の時代を駆け抜けられ、90余年の人生を全うされました。

嶋崎先生は一見、頑固で気難しいように思われていますが、我々嶋崎研究室出身者にとつての先生は大学の教官というより親父のような存在であり、たくさん卒業生が大なり小なり先生に助けられましたと思えます。

一般的には大学で学んだことを述べよと言われても、中々即答することはできないものです。

しかし、嶋崎研究室で学んだことは卒業後の人生にどれだけ役にたったかわからないほど多くのことを学んできた実感として感じています。

研究室時代は学生生活を謳歌するための支援を始めとし、自身の研究よりも学生の就職を最優先に考えて頂き、また、飲み会の席では社会人として必要な酒席でのマナー等を指導して頂きました。まさしく社会に出ていくための心構えを充分に指導いただいた思いが

強く残っています。

そして、いくつかの指導の中で叩き込まれた逆境に立ち向かう精神が卒業後の幾多の苦難を乗り越える原動力になったことは否めなと思います。

大学の恩師と時間を共有する期間は一般には1〜2年ですが、小生の場合はさらにプラスすること約25年間を積水化学の顧問として共有させていただきました。

先生の第二の人生は企業人として活躍され、我々に指導してきたことを自ら実践しながら日々、会社のメンバーにも指導して頂きました。今40余年間を振り返れば、教えられてきたことの有難さとそ

して、懐かしさが思い起こされます。

従って、だれよりも長く先生の薫陶を受けた者として、これからも嶋崎スピリッツを引きついで前に進んでいかなければと改めて思う次第です。

こよなく酒を好み、それだけ飲んでも乱れず、教職者から企業人になっても多くの人から先生と親しまれた嶋崎藤雄先生。

どうか安らかにお眠りください。

合掌

岐阜大学農学部

農業工学科卒 (25回)

高見 浩三

(元 積水化学工業株式会社

取締役専務執行役員

現 積水化学工業株式会社

顧問)

## 小森成一先生を偲んで

小森成一先生は平成29年2月1日に永眠されました。享年70歳でした。

先生は、昭和50年3月に岐阜大学農学部獣医学科を卒業され、その後岐阜大学大学院農学研究科修士課程に進学されました。昭和52年3月に大学院を修了後、家業であります東海畜産農園に勤務する

傍ら、岐阜大学農学部研究生として研究を続けてこられました。昭和62年8月には、「飯より好きな

学問の道」に専念したいとの思いから、岐阜大学農学部助手として赴任され、その後、平成2年11月に助教、平成9年4月に教授に昇任されました。先生は、平成23年3月に岐阜大学をご退官され

るまでの間、獣医薬理学の教育を担当されますと共に、学士および博士課程の研究指導にあたってこられました。また、在任中には、獣医学科長、応用生物科学部副学部長、大学院連合獣医学研究科長、岐阜大学理事・副学長などの要職を歴任し、学科、学部内にとどまらず、大学全体の管理・運営にも大きく貢献されてこられました。

研究面においては、消化管運動を調節する神経支配に関する研究、平滑筋細胞の電気的活動およびイオンチャネルの調節制御機に関する研究、平滑筋細胞におけるムスカリン受容体の細胞内情報伝達機構に関する研究等において数々の業績を挙げられ、いずれも国際的に高い評価を受けておられました。昨年8月には、平滑筋運動の調節に関する国際シンポジウムに小森先生を招待したいとの申し出を主催者より受けました。しかし、先生が亡くなられたことを連絡すると、主催者も大変残念がっておられ、「Big loss for us all...」の言葉とともにお悔やみを受けました。

先生は平成23年に岐阜大学をご退官された後も特任教授として大学に来られ、文部科学省の委託事業である「産業動物診療分野における全国的臨床実習システムの構築」にチーフコーディネーターとして参画しておられました。大学

に來られた時にはいつも一緒にお昼を食べ、たわいも無い世間話から大学教育の在り方まで話が尽きることはありませんでした。平成28年の6月末でしたが、先生は突然私の研究室を訪ねてこられ、自分が末期のすい臓がんであり、余命6カ月であることを告げられました。まさに青天の霹靂であり、私は言葉も出ませんでした。その後先生は変わりなく大学に來られ、その年の12月までコーディネーターとしてエネルギーギッシュに勤務しておられました。しかし、12月の末に入院されてからは急激に体調を崩され、年の明けた2月1日に帰らぬ人となりました。今でも亡くなられたことが信じられず、突然研究室に「よお！おはよう！」と訪ねて来るような気がしてなりません...

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

海野 年弘



## 加藤善二先生を偲んで

元農場教授加藤善二先生には平成29年11月14日ご逝去されました。先生の農場でのご貢献をしのびつつ、心からご冥福をお祈りいたします。先生には昭和21年に赴任され、昭和60年に退官されるまで、39年間美濃加茂農場、各務原農場および柳戸農場の発展に寄与されています。とくに美濃加茂農場における貢献は全国の大学農場で広く知られています。戦後の農業は食糧増産と国民の栄養条件の改善が重要視されていきました。当農場は黒毛和牛の繁殖、育成と肥育に至る肉用牛の一貫生産を一つの柱に、さらに繁殖の改善と健康な子牛を育成するため、トラクターを使った粗飼料の大型機械生産をもう一つの柱に各務原農場と特色を異にする農場建設に尽力されました。初めは役牛1頭から、トラクターはマッセイファーガソンの赤い中古車1台から出発したと聞いています。その後トラクターやそのアタッチメントの数も増え、宿泊棟（管理棟）、牛舎、が順次更新され、整備された現在に至っています。

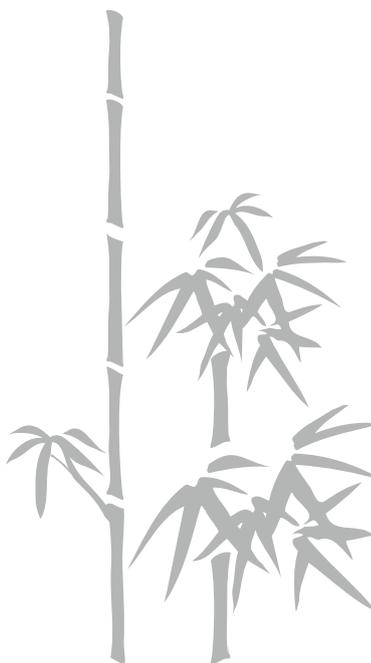
先生は前任の主事川瀬岩夫教授が昭和53年退官された後、主事を拝命され、農場の全般的な農場運

営調整と実習教育に当たられました。筆者は川瀬先生と交代のようになり農場教官となり、各務原農場管理棟内で教官室を本棚、衝立などで仕切り、加藤先生と隣り合わせで一緒に研究や実習に携わりました。先生は不圧差灌漑の応用研究をされていて、通常の灌漑と異なり、植物が必要なだけ、必要なとき灌水されるきわめて節水的、省力的で研究者の少ない研究分野と聞きました。美濃加茂農場においてもハウス内でメロンを使った実証研究が続けられ、農学科や家禽畜産学科の宿泊実習の時も朝早くにまた昼食時間を惜しみながら研究されている姿が目につかびます。そしてこの研究で大阪府立大学から博士号を授与されています。実習においては和牛一貫生産と牧草やサイレージの機械化省力

栽培の特色やその意義を講義された後、圃場に出て真剣に学生に対応されていました。昭和58年から59年にかけて柳戸農場が完成しました。しかし、農場の生命である圃場に大きな問題を抱えていました。圃場の盛り土は1.5mですが、伊自良川河川改修で出た土が用いられ、大きな礫、コンクリートブロックの破片など多くの夾雑物を含み、排水も悪い土壌でした。加藤教授（農場次長・主事から名称変更）のもとに教官、技官、さらには事務官まで協力して、これらの除去に当たるとともに、暗渠の作成や有機質の投入にも努力されました。昭和60年退官されましたが特色ある、またより整備された大学農場への思い、その功績を新たにしつつ、先生のご冥福をお祈りします。

文責 元農場教官

松井鑄一郎



# 事務局からのお知らせ

会員の皆様には、日頃より格別のご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は、冬には北陸での豪雪、初夏には西日本を中心とした豪雨があり生活圏の被害はもちろん、農林水産業にも大きな被害をもたらしました。また、全国的な災害レベルとも言える猛暑の中、岐阜県内の観測点では、連日、最高気温を記録した地点として報道されました。天変地異による災害が頻発しております。各地で被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。少しでも早く元の生活に戻れますようお願いいたします。

さて、今年度は、同窓会名簿発行年にあたります。同窓生の皆様方がともに近況を知る機会であるばかりではなく、在学生にとっても同窓生の皆様の活躍の場を知るよい情報源となっています。この機会に、同窓会名簿発行のご案内を確認いただき、同窓生ご本人様だけではなく、連絡を取りあっておられるご学友の皆様との連絡先も、同窓会へ一報いただければ幸いに存じます。いただいた連絡先は、ご学友

の方の同意を得られたもののみ、名簿情報として管理させていただきます。また、母校としての役割の一つとして、同窓生がお勤めの会社に限定した就職説明会を開催し、同窓会と在学生の繋がりを作り出す取り組みを行っております。企業の採用活動の一環として、積極的にご利用いただければと思っております。

今年度は、皆様のご協力ももちまして岐阜大学農学部・応用生物科学部は創立95周年として記念講演会を開催し、祝賀会では同窓生・在学生による落語も披露され、昔話に花を咲かせて時を過ごすことができました。創立100周年という節目に向けて、高等農林以来の志が今後も続くよう岐阜大学は様々なかたちで改革を続けていきたいと存じます。今後とも、皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、今後のより一層のご発展をお祈り申し上げます。

## 寄附金のお願いについて

平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

詳しくはこちらを確認してください。

### 申込書の記入方法

\*申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
岐阜大学応用生物科学部学務係気付  
岐阜大学各務同窓会事務局

## 第99号

平成30年11月30日

### 岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

TEL (058) 293-3411

FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/

e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

【申込書】

住所氏名を記入し、押印してください。

金額を記入してください。

1 寄附金額 円

2 寄附の目的及び条件

目的 岐阜大学における学術研究費

条件 なし

3 寄附金の名称  
岐阜大学奨学寄附金

4 その他(主たる寄附金お名前等)  
応用生物科学部共済  
【特定賞名称: 職名 応用生物科学部長 氏名 杉山 誠】